

前立腺肥大症について

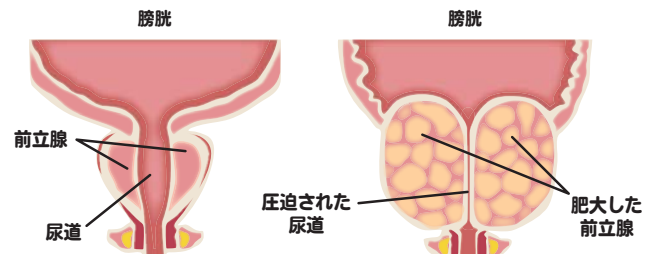
泌尿器科 楠田 雄司

前立腺肥大症とは

前立腺肥大症とは、前立腺が肥大して尿道を圧迫することで排尿障害などの症状を引き起こす病気です(図1)。高齢化社会の現在では前立腺肥大症と診断される患者数は年々増加しています。

診断方法

神経の病気や糖尿病などが排尿障害の原因になることもあり、前立腺肥大以外の病気で排尿障害をきたしていないかを確認することが必要です。また前立腺がんを合併していないことを確認することが重要で、血液中の前立腺腫瘍マーカー(PSA)の測定が有用です。前立腺肥大があれば、超音波(エコー)で前立腺のサイズの測定や、特殊なトイレで尿の勢いを測定、また排尿障害専用の問診票(国際前立腺スコア)で自覚症状を点数化することで前立腺肥大症の重症度を判定します。



(図1) 前立腺と尿道の様子

光選択的前立腺蒸散術(PVP)による治療

軽症であれば薬物治療、重症の場合は手術治療が選択されることが多くなります。薬物治療では、尿道の緊張を和らげることで尿の通りがよくなり、症状を改善することができます。ただし、肥大した前立腺を縮小させる効果はあまり期待できません。

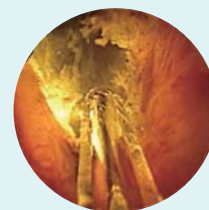
手術は尿道に突出した前立腺を取り除くことが出来るので、根本的な治療になりうるメリットがあります。最も広く行われている手術は、内視鏡を入れて電気メスで腫大した前立腺を切除する術式です(経尿道的前立腺切除術)。新しい術式としては、グリーンライトレーザーによる光選択的前立腺蒸散術(PVP)があります。(図2)

レーザーの特徴として術後の患部のむくみが少なくなるため、手術後の痛みがほとんどありません。また、手術後の尿道のカテーテルは、ほとんどの場合で翌日に抜去可能です。当院では2012年以降、400名以上の方が本術式を受けておられますが、輸血を要したことは1度も無く、非常に安全な手術と言えます。また、ほとんどの方が手術後3~4日で退院されており、社会復帰までの期間も短くて済みます。詳しい治療方法などについては、泌尿器科専門医までご相談ください。



手術前

前立腺肥大で尿道が圧迫され、尿の通り道が狭くなっている状態。



手術中

突出した前立腺をレーザーで蒸散(蒸発)させることで少しずつ尿の通り道を広げる。



手術後

突出が無くなり、広い通り道が確保されている状態。奥に膀胱が見える。

(図2) PVPによる治療

関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

さぶりめんと

2017-Sep.

No. 42

けん ばん
腱板断裂に対する関節鏡視下手術

整形外科 堀木 充

■ 実は整形外科が最初なのです

「内視鏡手術、内視鏡検査…」、最近よく聞かれる言葉ですね？外科、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科などでも行われていますが、内視鏡が最初に使われたのは実は整形外科領域なのです。内視鏡のなかでも整形外科では、「関節鏡」という関節用の内視鏡を使用します。関節鏡では、先にレンズとライトがついた細い管で関節内部を見ながら治療をします。関節鏡は膝関節から始まり、現在では肩、肘、手、指、股など様々な関節で治療に使用されるようになりました。

■ 腱板断裂の治療

腱板とは肩関節の周囲にある筋肉で、腕を上げるのに重要な役割を果たしています。この筋肉が転倒、転落で切れてしまうことがあります（自然と切れてくることもあるのですが）、肩の痛み、腕が上げられないなど日常生活が不便になってきます。肩の痛みは、じっとしているときや夜寝ているときにも出てくるようになり、五十肩と間違われていることもしばしば見受けられます。



さて、外科的治療（手術）ですが、以前は大きく皮膚を切開して切れた筋肉を修復していましたが、最近では関節鏡を使って修復するようになってきました。関節鏡を使うことのメリットは、切れた部分を詳細に観察でき、適切に修復できることです。また、皮膚の切開が小さくなることで、術後の痛みや筋肉の癒着などが少なくなり、リハビリもスムーズに進むため、患者さんにもメリットがある手術方法と言えます。

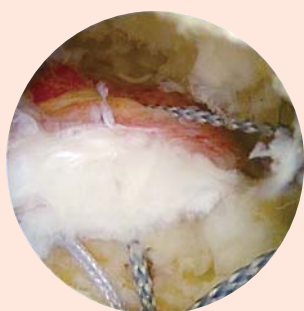
関節鏡を使った治療

腱板断裂



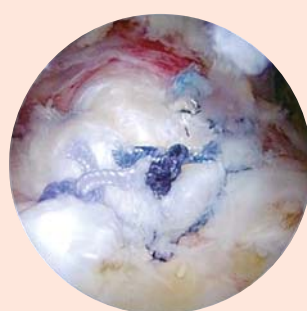
本来なら切れた筋肉(矢印)は上腕骨(星印)のところにくっついていきます。

腱板修復中



断裂した筋肉に糸を通していきます。

腱板修復完成



切れていた筋肉がもとの位置に修復できたら完成です。

もちろん、修復できるものとそうでないものもあり、腱板断裂だから何でも関節鏡治療（手術）が出来るわけではありませんので、肩の痛みを感じている方や腱板断裂でお困りの方、また詳しい治療方法などについてお知りになりたい方は、整形外科専門医までご相談ください。

